

市町村のまちづくり

新たな交流の場「出城ノモリ」をとおした地域人材づくり

古河市都市建設部都市計画課 係長 椎名 英治

はじめに

古河市は、古くは万葉集にその名が詠まれ、室町時代には古河公方の拠点が置かれ、江戸時代になると譜代大名の城下町、日光街道の宿場町としても栄え、小京都と呼ばれています。

特に、古河駅西口にある博物館周辺エリアとなると、古河城の出城の遺構や趣ある建物が残っていることから、古河市景観計画（平成26年3月策定）において景観形成重点地区に指定されています。



▲緑が多く残る古河歴史博物館と鷹見泉石記念館前の石畳の道

景観まちづくりの一環として

本市は、この歴史的な景観を未来に継承していくため、古河市景観条例にて建築物の意匠などの制限を行っているほか、平成28年からまち並みに調和した建物などを「古河市景観賞」として表彰してきました。

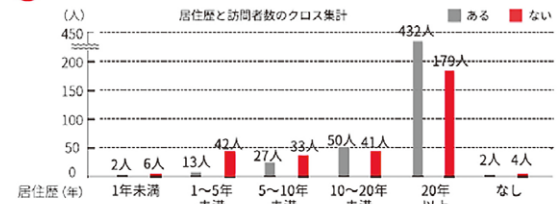
しかし、本地区では、住民の高齢化が進み、趣のある建物が空き家となり取り壊されていくほか、昔から営業していた店舗が閉店していくなど、残したいと思っている建物を守れず景観を維持できていないのが実情となっています。

そこで、令和4年度からこの流れを少しでも変えていくため、景観形成重点地区を多くの人に知ってもらう方策や地区内に必要な要素は何なのかを探る取り組みを始め、まず市民アンケートを実施しました。

そして、その結果を参考に「歩いてみたい」「また行ってみたい」と思える場所にする取り組みを市民と一緒に考える「まちの魅力発見ワークショップ」を開催しました。ワークショップに参加した15人と重点地区を実際に歩いて回り、「ここにしか無いもの」をさらに磨き「必要なもの」を補いながら自分たちが実現してみたいアイデアを150個提案してもらいました。

○市民アンケート結果の一部（アンケート回答数：831）

① 古河歴史博物館や文学館などに行ったことはありますか？



歴史や趣きのある博物館周辺の認知率が若者や居住歴の短い人を中心に少ないのが残念です。特に居住歴の短い人に対する情報発信が重要ですね。



○ワークショップ参加者が考えたアイデアの一部



メンバーそれぞれが思う「古河」の魅力起点に、市民生活の質を向上させるアイデアやPRアイデアがたくさん生まれました！



■市民と共に創る新たな交流の場

令和5年度となり「まちの魅力発見ワークショップ」の参加者6人を含めた20人による「まちなかDIYワーク」を全3回にわたり開催しました。ワークでは、150個のアイデアに新たな参加者の意見も加え、できる限り多くのアイデアが実現できるよう、更に議論を重ねていきました。

参加者が20~60代と幅広い年代だったことから、自由な意見をみんなが認め合い、自身の特技(強み)を活かし、作業を行えたため、常に笑顔が絶えない雰囲気が進めることができました。

DIYワークでは、「まちめぐりMAP班」「ご当地ガチャ班」「なぞなぞ班」「イベント演出班」にグループ分けし、参加者のアイデアをお披露目するイベントの開催を目標に、個々の負担になり過ぎないように、20個のアイデアに絞り込んでいきました。その過程で参加者が自発的に地区をイメージしたキャラクター「デジロー」やご当地ガチャのリーフレット制作を行うなど、当初は想定できなかった参加者同士の化学反応が起こり、クリエイティブな成果をたくさん生むことができました。



▲まちめぐりMAPの制作コンセプトについて発表する参加者

■地域に根付いた愛されるイベントに

今回の取り組みは、継続して開催してこそ意義があることから、市民に認知してもらえるイベント名を作りたいと考えました。本地区には、古河城の出城の遺構が残るほか、地区内の古河第一小学校で親しまれている「出城」をキーワードにワーク参加者と議論し、多数決で「出城ノモリ〜みどりのMarket〜」に決めました。これには、出城の周辺に残る緑豊かな自然に囲まれながら多くの人がこの場所に関りを持ってMarketをつくり上げたいという想いが込められています。



▲完成したパンフレット。裏面がMAPになっている

■出城にたくさんの方が集う1日

11月26日(日)の「出城ノモリ」当日は、気温が低く小雨が降る天候でしたが、2,000人を超える来場者は、飲食や体験など60もの出店があった9つのブースを思い思いに巡っていました。ワーク参加者が考えたご当地ガチャ「古河チャ」は大盛況となり開始2時間で完売したほか、なぞなぞ「出城ノクエスト」には100人以上が参加したことは、地区内を回遊させる人の流れをつくることに一役買っていったと思います。

イベントをとおしてワーク参加者の「楽しかった」「またやりたい」という気持ちを育むことができたほか、エリア内の店舗経営者からも「すごく賑わいがあったから次も協力したい」などのポジティブな言葉をもらったのは、次につながる原動力になります。



▲「出城ノモリ」のボランティアスタッフとして活躍した市民の皆さん

■市民の「まちに対する想い」を育てる

単に、道路整備や修景整備を行えば、表面的にはまちの景色は取り繕えますが、長期的に施設や土地の有効活用が図られ、まちの賑わいにつなげていくことはできないと考えています。

だからこそ必要なものは、自身のまちを良くしたいと本気で考える人を増やしていくことです。最初の一歩は「何かやってみたい」「関りをもってみたい」という動機かかもかもしれませんが、この想いに行政が伴走し、市民との関係性を深めていくことで、まちの課題を自分事に置き換えて考え、行動につながられるようになると思います。

私たちが行っている「出城ノモリ」に集う地域人材づくりは、小さな一歩を踏み出したばかりです。景観の保全だけでなく、地域資源の活用をとおした持続可能な賑わいづくりを行っていくためにも、この市民共創のまちづくりをより大きなものにしていきたいと考えています。

出城ノモリへの来場者アンケート結果

Q: この取り組みに今後
関わってみたいですか?

21/35人

が関わってみたいと回答

自由意見 (一部)

みんなの楽しいに
関わる自分が自分
にとっての楽しい
ことだと思った。